

ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。



nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

Message メッセージ

形成外科の開設

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

Information お知らせ

■にしびょうTopics

災害医療へのとりくみ

— DMAT派遣、病院災害対応訓練の紹介 —

■特集

地域医療連携センターのご紹介

■院長エッセイ「四季雑感」

向日葵

■医療技術NOW!

採血開始時間を繰り上げました

■絵の中の風景を旅するvol.19

にしびょう美術館館蔵品を毎回紹介



形成外科の開設

形成外科医長:高須啓之



平 成29年4月より形成外科を常勤医師1名で開設致しました。今までも非常勤医師による外来診療は行っておりましたが、これからは本格的に地域の皆様方のお力になることが可能となります。当科の対象疾患について説明致します。

新鮮外傷・熱傷

形成外科では外科の基本である「きずをきれいに縫う」ことを重視しています。初期治療からきずあとのケアまで専門治療を一貫して行っています。特に小児や女性の外傷、骨折を含む顔面外傷など整容面の配慮が望ましい症例はご相談下さい。手術用顕微鏡も新規に導入しましたので、切断指など高度救急疾患にも対応可能です。

皮膚皮下腫瘍

ほくろから皮膚悪性腫瘍まで、きちんと切除しきれいに再建致します。

瘢痕・ケロイド

外傷や手術後のきずあとの治療を行います。

慢性難治性潰瘍

動脈硬化や糖尿病をベースとした足潰瘍、褥瘡など慢性創傷も治療します。

再建外科

四肢外傷後や悪性腫瘍切除後の組織欠損に対し、マイクロサージャリーを用いた再建手術を行います。また乳腺外科と協力して、乳癌切除後の自家組織や人工物を用いた乳房再建も可能となりました。

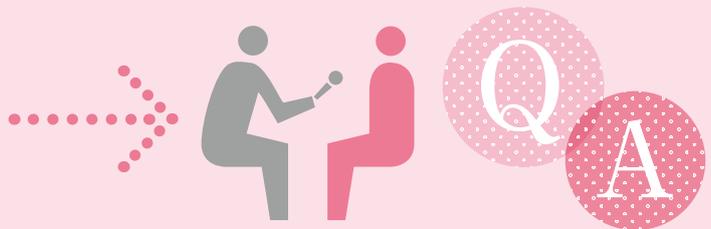
その他

眼瞼下垂や下肢静脈瘤、巻き爪、腋臭症(わきが)、小児の先天奇形(口唇口蓋裂・合指症・多指症・耳介奇形・臍ヘルニアなど)の治療も対象としています。



形 成外科は機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、皆様の生活の質 "Quality of Life" の向上に貢献する外科です。お困りの患者さんがいらっしゃいましたら御気軽にご相談下さい。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

乳房再建について質問! INTERVIEW



Q 乳房再建にはどのような方法がありますか?

A 主に自分のからだの一部(背中やお腹の筋肉、脂肪、皮膚)を移植する方法と、シリコンインプラント(人工乳房)を挿入する方法があります。からだの一部の場合、やわらかさや温かい自然な乳房ですが、背中やお腹にきずあとが残ります。インプラントは、先にエキスパンダーで皮膚を伸ばして、3~6か月後に入れ替える方法です。人工物のため少し硬く温もりに欠けますが、新たなきずをつくることはないです。乳輪乳頭を再建する方法もあります。

Q 乳房再建はいつできますか?

A 乳がんの手術と同時に行う方法と、乳がんの手術後に一定期間をおいて行う方法があります。同時に行う場合、胸のふくらみがなくなり、つらく悲しい思いはないですが、再建方法について考える時間があまりありません。手術後に行う場合、乳がんの治療に専念でき、再建方法をゆっくりと考える時間があります。

Q 乳房再建の費用はどの程度でしょうか?

A 健康保険(3割負担)の自己負担額の目安ですが、高額医療費の払戻し制度を申請すると10万円程度です。乳房再建の方法には特徴があります。乳房再建に関心がある方は、自分の希望する生活や希望などを医師に伝えましょう。そして、形成外科医とよく相談して再建方法を決めましょう。

(がん看護専門看護師・乳がん看護認定看護師:井関 千裕)

最新情報

医療関連機器圧迫創傷の予防と管理

昨年、ベストプラクティス「医療関連機器圧迫創傷の予防と管理」(照林社)が出版されました。医療関連機器圧迫創傷とは、弾性ストッキングやギプスなど医療機器による圧迫で発生した創傷を言い、褥瘡の範疇に入ります。しかし、従来の褥瘡対策のみでは発生を予防できませんでした。日本褥瘡学会では、褥瘡有病率を低下させるためには医療関連機器圧迫創傷の発生を低下させることが重要であるとして、医療関連機器圧迫創傷に関するベストプラクティスの出版に至り注目を集めています。このたび、当院の皮膚・排泄ケア認定看護師が新しく誕生し二人体制になりました。医療関連機器圧迫創傷の啓発と発生を予防できるよう市位認定看護師と二人で協力していきたいと思ひます。

(皮膚・排泄ケア認定看護師:仲西 優美)

スタッフ紹介



- 高須 啓之 形成外科医長(上段左4番目)
- 高橋 典子 研修医(上段左1番目)
- 山下 雅代 外来看護師長(下段左4番目)
- 井関 千裕 がん看護専門看護師・乳がん看護認定看護師(下段左3番目)
- 仲西 優美 皮膚・排泄ケア認定看護師(上段左3番目)
- 市位 理恵 皮膚・排泄ケア認定看護師(上段左2番目)
- 谷川内都史子 看護師(下段左1番目)
- 横田 和子 看護師(下段左2番目)
- 酒井 美和 薬剤師(上段左6番目)
- 森本安友未 管理栄養士(上段左5番目)
- 磯沖 文誉 糖尿病療養指導士(下段左5番目)

災害医療へのとりくみ - DMAT派遣、病院災害対応訓練の紹介 -

地域の災害拠点病院である当院では災害時用の医療資機材等を備蓄し、以下の活動を行っています。

- 1) 災害派遣医療チームDMATの養成・派遣
- 2) 病院の災害対策訓練(多数傷病者対応訓練、地震対応訓練 等)

熊本大地震には、急性期のDMATとその後医療救護班を派遣しました。DMATの活動は4/16～19、医師3名看護師1名ロジスティック1名で、県西DMATに割り当てられたミッションは「阿蘇地区から多数の傷病者を受け入れている『東病院』の診療支援と、傷病者の被災地外への転院・転送調整の統括」でした。朝、DMATや自衛隊の車両によって出発する患者様達を見送って一段落でした。

救護班は5/7～11、阿蘇医療センターに設置された復興連絡会議(ADRO)の本部活動と診療支援を担当しました。本部の運営と避難所調査やナースの夜勤サポートを行いました。

災害対策訓練の企画は、昨年度は単独で地震対応訓練、今年度は内閣府主催の大規模地震時医療対応訓練実施にあわせて、南海トラフ地震を想定した大規模訓練(7月29日)を実施しました。

(救命救急センター救急科部長：鵜飼 勲)



地域医療連携センターのご紹介



平成29年度より地域医療連携センターでは、役割強化のために増原完治地域連携副部長が誕生し、メンバーで新しくなったものもあります。

今まで以上に、中核病院として地域支援病院として、地域の医療機関の皆様方に信頼され、安心してご利用いただけますように、スタッフ一同地域連携の強化に取り組んで参ります。お気づきになりましたことや



ご要望がございましたらいつでもお気軽に私たちにご連絡ください。この地域で療養される患者さん・家族さんが安心できる街づくりに貢献していきたいと考えております。

地域医療連携センター直通番号 ☎34-5174(平日9時から17時)

(地域医療連携センター課長：福田 和美)

四季雑感



真 夏の強烈な太陽光を浴びると、私の脳裏にひまわりが辺り一面に咲き誇っている光景が浮かびます。同時に何故か日焼けが思い出されます。向日葵と書くように、常に太陽に向かい続けるさまと、その黄色と濃い褐色のコントラストがそうさせるのかもしれませんが。

先日、現生人類として最古の化石が、北アフリカのモロッコで見つかったという報道がありました。これまではエチオピアで発掘された20万年前の化石が、最古の現生人類とされていましたが、今回の発見で現生人類の起源が30万年前まで遡ることになったそうです。

現生人類の皮膚色の原型は、メラニンを多く含んだ黒色であったはずですが、アフリカの強い紫外線から人体を守るには、皮膚のメラニン色素を増加させる必要があったからです。これは葉が生い茂る樹上から出て、なおかつほとんどの体毛を失った人類にとって、生存のために必須の適応であっ

たでしょう。

ところが、人類が高緯度の寒冷地に移住していく過程で、この黒い皮膚は生存には適さなくなりました。何故かという、皮膚にメラニンの量が多いと、紫外線によってつくられるビタミンDが少なくなって、クル病を患ってしまうからです。そのために人類が寒冷地で生活できるようになるには長年月を要したようです。

そこで人類は、持ちまへの環境への適応性を発揮して、メラニンの合成にかかわるいくつかの遺伝子に変異を生み出して、徐々に皮膚の色が白くなっていったのです。

さらにずっと時代が下って、現代に至ると、今度は地球の環境破壊によるオゾン層の減少のせいで、夏には強い紫外線に晒される羽目になりました。その結果、皮膚がんに対する不安が高まっている国や地域も出始めています。

この季節、強烈な紫外線を避けるために、出来るだけ早起きして、蝉が鳴きだす前に散歩するのもよいのではないのでしょうか。



兵庫県立西宮病院 院長
河田 純男

医療技術 NOW!

西宮病院の「今」がわかる。

【採血開始時間を繰り上げました】

平成28年8月より、8時からの採血を開始しました。化学療法センターでは、治療される方が増加し、お待たせすることがありました。治療が少しでもスムーズに受けられるよう、採血時間を早め、化学療法を受ける患者さんを中心にご案内しています。12月からは、採血準備が早くできるようになったため、化学療法以外の患者さんの採血も8時45分開始から8時30分に採血を開始することができました。朝の早い時間は検査待ちで混雑していましたが、緩和することができました。外来では、患者さんの声を大切に、できることから少しずつではありますが、より良い医療が提供できますように、これからも努力していきたいと思っております。

(外来看護師長 山下雅代)



絵の中の風景を旅する vol.19

<http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/>

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者さん、そのご家族などからのご寄付による200以上にのぼる絵画が飾られています。“にしびょう美術館”の貴重な“館贈品”は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。



展示場所

当院ホームページ内
にしびょうwebミュージアム



京都府伊根町の漁港の風景です。家屋の一階に船や漁具を収納する舟屋が軒を並べる独特の景観は、平成17年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に認定されています。皆さんも一度は観光案内や旅番組などでも見たことがあるのではないのでしょうか。

この絵からも分かるように、伊根漁港は伊根湾の中にあつて、急峻な山が迫った地形を背にして舟屋が並んでいるのが特徴です。また、漁港前面の沿岸は好漁場で大型の定置網漁などが行われているほか、湾内ではクロマグロの養殖なども行われているそうです。

本来は船や漁具の保管などを目的に作られてきた舟屋も、戦後は漁船の動力化、大型化、また非木造化などにより、船を収納しなくなるなど、用途も変化してきているようですが、これからは是非残して欲しい風景です。
(総務部:伏見 達)

編集後記

編集室



残暑が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

看護部では今年度も「ワンモア看護の実施」を目標に、各部署取り組んでいます。私たちは、患者・家族の思いに寄り添ったタイムリーな看護の提供ができるよう、他部門との連携を図っています。今後も地域連携センターと情報共有し、協働しながら、患者さんにとっての最善は何かを考えながら取り組んでまいりたいと思います。

(7階病棟看護師長:江藤 奈央美)

HAMAKAZE
2017.19
Vol. 19

兵庫県立西宮病院

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594

地域医療連携センター FAX:0798-34-4436

E-mail:chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

2017.8 発行